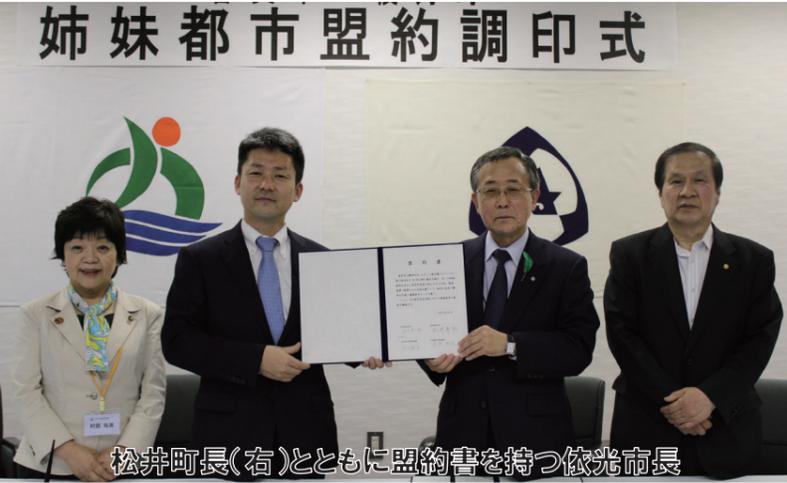


YOSAKOIソーラン祭り



姉妹都市盟約調印式

香美市・積丹町 姉妹都市盟約調印式

香美市商工会からフラフ贈呈

松井町長(右)とともに盟約書を持つ依光市長

記念行事開催

6月9日、積丹町と香美市の交流30年・姉妹都市盟約20周年を記念した式典が、積丹町役場で開催され、香美市からは、依光市長を団長とする18名が出席しました。

また、式典後には、「YOSAKOIソーラン祭り」の創始者で、参議院議員の長谷川岳さんによる講演会も開催されました。

香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会の西山武会長は、「10年の節目の調印式も会長として出席させてもらった。引き続き、20年の節目の調印式に参加することができ、感慨深い。積丹町と香美市の交流の歴史が今後も続いていくように、今までの交流をいかし、これからも絆を深めていきたい」と話しました。



▲長谷川 岳さん

「YOSAKOIソーラン祭り」の創設者であり、積丹町と香美市の交流に深く関わりがある。現参議院議員。51歳。



札幌市で開催された「第32回YOSAKOIソーラン祭り」には、香美市から踊り子隊と訪問団総勢39名が参加しました。また、踊りには、積丹町と香美市で結成された「ヤーレンソーラン積丹町&香美市」として出場し、積丹町から28名、香美市から20名の踊り子が参加しました。

6月10・11日の本祭、大通公園など札幌市内の5会場で踊りを披露。積丹町発祥の民謡ソーラン節とよさこい鳴子踊りを融合させた楽曲と元気な踊りには、観客から大きな拍手と声援をいただきました。

濱田賢一実行委員長は、「YOSAKOIソーラン祭りへの踊り子隊の参加は、市民の皆さんからの多大なご寄付により事業を継続することができている。特に今年は、積丹町との交流において、記念すべき年であり、積丹町での式典開催とソーラン祭りへの参加は、友好の絆をさらに深めた」と言葉にしました。

交流30年・姉妹都市盟約20周年

よさこいが結んだ

友好の絆

北海道 積丹町と香美市の姉妹都市盟約20周年を記念し、積丹町で記念行事が行われました。

また、今年も「YOSAKOIソーラン祭り」に積丹町と香美市の合同チームが参加し、交流を深めました。

交流の起源

平成3年8月、当時北海道大学の学生であった長谷川岳さんが高知に在学中の兄を訪ねる。その時に、よさこい鳴子踊りを見て感動し、このエネルギーな踊りを札幌で披露したいと考えた。

YOSAKOIソーラン祭り誕生

長谷川氏は、周囲の学生を巻き込んで実行委員会を組織し、平成4年には第1回YOSAKOIソーラン祭りが開催された。

積丹町との出会い

この年、実行委員会のメンバーが、自分たちも踊りたいと、本場高知のよさこい祭りに参加することになった。

多額の費用を要するため、当時の高知県北海道事務所を通じて格安の宿泊施設を探した。四方八方手を尽くしたが、受入れ先がなく、同事務所で土佐山田町出身の職員が、旧土佐山田町に受入れを打診した。土佐山田町はこれを了承し、公共施設を宿泊先として提供した。

宿泊した北大生の中には、第1回YOSAKOIソーラン祭りの出場チーム「ヤーレンソーラン積丹町」のメンバー2名積丹町職員が同行しており、土佐山田町の若者と意気投合。積丹町との交流が始まった。

北の大地へ

翌年の第2回YOSAKOIソーラン祭りには、山田太鼓伝承会をはじめ、総勢55名が参加し、積丹町を訪問した。

YOSAKOIソーラン祭り

平成4年、よさこい祭りの鳴子と北海道の民謡ソーラン節をミックスして誕生。札幌市の中心街にある大通公園を中心に、街中が祭りの熱気に包まれる。

毎年6月に北海道札幌市で開催され、現在では観客約200万人にもおよぶ、北海道有数の観光資源へと成長した。また、参加チームは約250、踊り子は3万人を超え、本場高知のよさこい祭り(チーム数約200、踊り子約2万人)を上回る規模となっている。

